

- 素材（丸太）生産の経験が少ない林業事業体においては、今後の拡大が見込まれる主伐や利用間伐において利益を森林所有者に十分還元するためには、実践的な研修の場が必要である。
- 主伐期を迎えつつある生育が良好な市有林については有効活用が求められている。

## 事業内容

### 素材生産にかかる人材の育成

- ・ 森林経営計画に基づく主伐を地元森林組合が実施
- ・ この現場での人材育成研修の開催を県の森林組合連合会に委託
- ・ 伐採現場においてOJTによる研修会を開催

【事業費】422千円（うち譲与税422千円）

【実績】実施回数 3回（9月17日、10月9日、11月12日）

伐採面積約0.5ha、出材材積432m<sup>3</sup>

準備・片付け込みの労働生産性7.7m<sup>3</sup>、純生産性8.8m<sup>3</sup>

## 取組の背景

- ・ 伐期を迎えた人工林資源が充実しつつある一方で、間伐対象林分は減少する時期を迎えており、間伐補助事業を林業経営の柱の一つに据える事業体においては、間伐から主伐への転換は避けて通れない。
- ・ 市有林においては、主伐はこれまでほとんど行われておらず、市有林の意味を問う声もある。
- ・ 主伐経験の少ない事業体が、新市庁舎での市産材利用のため令和4年度に市有林において主伐を行った。この時の反省や経験を活かし、技術・知見を蓄積して向上させるためにも継続することが必要。



## 工夫・留意した点

- ・ 昨年度の研修で主に講師を務めていただいた方に今年度の講師をお願いし、講師が代わることにより受講者側が戸惑うことが無いよう配慮した。
- ・ 全体の構成を、事前の計画、現地でのOJT研修、事後評価の3回とした。現地研修については、本巣市で事業を行っている他の事業体にも参加を呼びかけた。
- ・ 事業体においてはより収益を意識した施業に取り組むこと、市においては事務処理の軽減のため、前年度までの業務の委託による伐採から事業体に対する補助による伐採に切り替えた。

## 取組の効果

- ・ 伐採対象となった鍋倉市有林における令和7年度以降の継続的な主伐計画（当面は経営計画に記載のある令和9年度まで）と、伐採跡地の植栽・保育への対応。
- ・ 現場技術者への指示や関係団体との調整などは、経験年数の比較的少ない職員が担っており、準備・計画段階の重要性の再認識と前々年の主伐や前年の間伐業務での経験等の蓄積。

## 基礎データ

|                    |  |                       |                 |
|--------------------|--|-----------------------|-----------------|
| ①令和6年度譲与額：63,562千円 |  | ②私有林人工林面積（※1）：7,270ha |                 |
| ③林野率（※1）：85%       |  | ④人口（※2）：<br>32,928人   | ⑤林業就業者数（※2）：45人 |

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

- 令和6年7月に開庁した市役所新庁舎の外構緑化工事において、市の森林の特色が感じられる樹木を植栽
- 本巣市を代表する淡墨桜（天然記念物から増殖した次世代木）を旧庁舎等から移植

## 事業内容

### 市役所新庁舎の周辺景観整備（緑化）

- ・ 本巣市役所新庁舎周りの植栽・外構工事
- ・ 同職員駐車場・遊水地周りの植栽・外溝工事

【事業費】63,030千円（うち譲与税37,820千円）

【実績】高中木：カシ類、ヤマボウシ、エゴノキなど22種103本  
 淡墨桜：13本、トキワマンサク(生垣)：251本 ほか

## 取組の背景

- ・ 4つの町村が合併した本巣市では、平野部に住む大多数の市民にとって、林業や森林は縁遠い存在である。
- ・ 新市庁舎の建設では、森林環境譲与税を活用して本巣市有林のスギ・ヒノキや広葉樹を用いた内装木質化や家具の制作に取り組んだ。
- ・ 市の花である「淡墨桜」や福井県境から濃尾平野に亘る市域の森林の多様性を新庁舎周辺の緑化外構工事に活かし、市民に親しまれる市庁舎を目指す。



（庁舎正面）



（庁舎西）



（駐車場と車道の間）

## 工夫・留意した点

- ・ 市南部の平野が広がる暖温帯と市北部の山地帯という双方の特色を考慮する一方で、珍しさにも一定程度配慮して樹種を選定する。
- ・ 植栽の主となる高中木は、暖温帯を象徴する常緑のシイ・カシ類、山地帯を象徴するコナラなどを選ぶ。カエデやケヤキなどの市との繋がりが薄い樹種は外す。
- ・ 本巣市を代表する淡墨桜は、市のPRには欠かせない存在であり、旧施設等に植えられていた次世代木を移植する。

## 取組の効果

- ・ 令和6年7月に開庁し、最初の春を迎えた令和7年にはエゴノキやアオハダなどの花を楽しむことができた。
- ・ 高中木が生長した際には、市庁舎1・2階の市民スペースからの樹の間越しの眺望に期待される。
- ・ 庁舎の周囲は農地が広がり、今は市役所庁舎に訪れた人が目にする程度であるが、隣接地で建設中の本巣消防署分署の完成後には、より多くの市民が接することが期待される。

## 基礎データ

|                    |                       |                 |
|--------------------|-----------------------|-----------------|
| ①令和6年度譲与額：63,562千円 | ②私有林人工林面積（※1）：7,270ha |                 |
| ③林野率（※1）：85%       | ④人口（※2）：<br>32,928人   | ⑤林業就業者数（※2）：45人 |

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より